

「ペトロ、足の不自由な男を癒やす」

2024年01月03日

彼はペトロとヨハネが境内に入ろうとするのを見て、施しを乞うた。ペトロはヨハネと一緒に彼をじっと見て、「わたしたちを見なさい」と言った。その男が、何かもらえるのかと期待して二人に注目していると、ペトロは言った。「私には銀や金はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい。」そして、右手を取って彼を立ち上がらせた。すると、たちまち、その男は足やくるぶしがしっかりして、躍り上がって立ち、歩きだした。そして、歩き回ったり躍ったりして神を賛美し、二人と一緒に境内に入って行った。（使徒3：3～8）

ペトロとヨハネは、午後3時の祈りの時間にエルサレム神殿に上って行った。すると、生まれつき足の不自由な男が、生活能力がないので、神殿に来た人に施しを乞うために、毎日「美しい門」と呼ばれた門の所に「運ばれて」座っていた。彼は「美しい門」から境内に入ろうとするペトロとヨハネを見て、いつものように施しを乞うた。ペトロとヨハネは彼をじっと見て、「私たちを見なさい」と言った。施す時、乞う人を見つめて、声をかける人はいない。さりげなく、小銭を与えるだけである。ところが、二人は彼を凝視し、声をかけた。こんなことはないので、さぞ大金を恵んでくれると期待して、男は二人を見つめた。ペトロは彼に、「私には銀や金はないが、持っているものをあげよう。ナザレの人イエス・キリストの名によって立ち上がり、歩きなさい」と言った。私はあなたにあげるお金はない。しかし、持っているものをあげよう。それは、十字架の死から復活したイエス・キリストの名である。この方の名、即ち、力をあげようと、「立ち上がり、歩きなさい」と命じた。そして、右手を取って立ち上がらせた。すると、彼は足とくるぶしがしっかりして、立ち上がって、歩き出した。更に、歩き回ったり、躍り上がったたりして、神を賛美しながら、二人と一緒に境内に入って行った。民衆は皆、彼が「美しい門」の側で座って、施しを乞うていた男であることを知っており、その彼が歩き回り、神を賛美している姿を見て、驚き、卒倒しそうになった。

民衆は、ペトロの力に驚嘆し、好奇の目を持って、ペトロとヨハネに付きまとった。ペトロは、「イスラエルの人たち、なぜこのことに驚くのですか。また、私たちがまるで、自分の力や敬虔さによって、この人を歩かせたかのように、なぜ、私たちを見つめるのですか」と、足の不自由な人を歩かせ、神を賛美させたのは、自分たちの力や敬虔さではないと語っている。そして、主イエスについて語っている。私たちの先祖の神は、神の僕イエスに栄光をお与えになった。あなたがたは、ローマの総督ピラトが釈放しようとして決めた主イエスを拒み、人殺しのバラバを赦すように要求した。命の導き手である聖なる方を殺してしまった。しかし、神は主イエスを死者の中から復活させてくださった。私たちは復活の証人である。この主イエスの名、力に信頼し、それを受けて、あなたがたが知っている足の不自由な人を強くした。主イエスの名による信仰が、あなたがたの前で、彼を完全に癒やしたのである。この奇跡は下記のように受け止められるのではないか。

足の不自由な男は、門の側に運ばれていた。人に「運ばれて」いた者が主イエスの名によって、自分の足で立って歩き、神を賛美する者へと変えられた。放棄していた人生から、主体的に生きる人生に蘇らされたのである。クリスチャンは皆、この奇跡に与って、自分自身を獲得し、神を賛美する喜びを経験しているのではないか。